

Rotary

奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために

Serve To Change Lives



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 倉 井 章

幹 事 渡 邊 和 裕

会報・雑誌委員長 原 賢一

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算2942号 2022年2月22日(晴れ) 第30回例会 会員数116名

オンライン例会

点 鐘 倉井 章会長
司 会 副SAA 山崎会員

◇ロータリーソング「それこそロータリー」

※マスクを着用し、心の中で斉唱



ビジター紹介

渡邊和裕幹事

◇株式会社栃木サッカークラブ

代表取締役 橋本 大輔 様(卓話講師)



会長挨拶

倉井 章会長

皆様、こんにちは。本日もオンライン例会へのご参加、有難うございます。ご承知の通り「まん延防止等重点措置」が来月6日までの延長となりました。来週1日の例会もオンライン例会とさせていただきます。昨日の新規感染者数が371人とかなり減少しておりますので、何とかこのまま落ち着いてくれることを祈りたいと思います。

先日の20日(日)に、国際ロータリー第2550地区ローターアクトが、栃木県赤十字血液センターと協働し、ショッピングセンターバルモールにおいて献血活動を行いました。私と渡邊幹事、松山青少年奉仕委員長も参加してまいりました。この活動は、国際ロータリー第2660地区ローターアクトの発案により、2月に全国22地区で一斉に献血活動を行う「全国一斉献血」の開催となったものです。新型コロナウイルス感染症のまん延によって外出自粛をはじめとする感染対策が講じられ、不要不急ではないものの献血者数が減少しており、夏の暑い時期と冬の寒い時期には献血者数が大きく減少することから、献血の需要が高まっている中、全国の若い力をそれぞれの場所で集結し、血液不足の現状を日本全国で解決していきたいという全国のローターアクターの想

いがあり、この趣旨に賛同し、ここ栃木でも献血活動を行うことになりました。

当日は、地区内の20数名のローターアクターが集まり、受付及び2か所の街頭声掛けの場所に分かれ、10時から16時までの一日、活動を行っております。ローターアクター達の頑張りで、目標献血者数の60名を超え、受付者数77名、献血者数69名の方々にご協力を頂くことができました。また、赤十字血液センターの担当者の方から、今回が初めての献血という方が非常に多く、若い熱意溢れる活動が多くの人々の共感を得ることができたのではないかと嬉しい言葉を頂いております。渡邊幹事も献血を行い、私もお願いしたのですが、年齢が16~69歳の方で、65歳以上の方の献血は60~64歳の間に献血経験がある方に限られるため、私は60歳以降献血をした経験がありませんでしたので、残念ながら献血が出来ませんでした。

輸血に使用する血液は、まだ人工的に造ることができず、長期保存することも出来ません。このため、輸血等に必要な血液を確保するためには、一時期に偏ることなく、1日あたり約14,000人の方に献血にご協力いただく必要があります。献血した血液は、各地のブロック血液センターに運搬され、精密な検査や血液成分ごとに分離が行われて血液製剤となり、適切な温度下で保管され、医療機関からの要請に24時間365日対応ができる体制を整え、患者さんが必要とする時に血液が届けられ、輸血用血液製剤の多くは、がん(悪性新生物)の患者さんの治療に使用されています。使用する方の約85%は50歳以上だそうです。

日本国内では、少子高齢化等の影響により、主に輸血を必要とする高齢者層が増加し、若い世代が減少しています。10~30代の献血協力者数はこの10年で34%(2011年 約264万人が、2020年 約174万人と90万人)も減少しており、少子高齢

化が今後ますます進んでいくと、血液の安定供給に支障をきたす恐れがあるそうです。

「人間を救うのは、人間だ。」が、日本赤十字社のコーポレート・スローガンですが、我々ロータリーを含め、今後もローターアクトの献血活動を支援したいと思います。



本日はゲスト卓話となります。株式会社栃木サッカークラブ 代表取締役 橋本大輔様 にお話を頂きます。先週19日、カンセキスタジアムで秋田と今季開幕戦を戦い、1-0で8年ぶりの開幕戦勝利をし、幸先の良いスタートを切っております。

“地域と共に栃木サッカークラブのある生活の喜びを創り、社会を豊かにする”と言うミッションを持ち、“常に前に進み続ける”の精神で、今シーズンも活躍して頂きたいと思っております。橋本様、宜しくお願い致します。それでは会員の皆様、最後までオンライン参加お願い致します。



新会員紹介

紹介者 渡邊和裕幹事



氏名 谷田部 勝寛
(やたべ かつひろ)
年齢 34歳
事業所名 ジブラルタ生命保険(株)
職業分類 保険
所在地 〒320-0811 宇都宮市
大通り2-3-1 井門宇都宮ビル9F

電話番号 028-614-3610

推薦者 田原 聖会員 田嶋 宏章会員
※紹介 田原会員



氏名 木下 仁志
(きのした ひとし)
年齢 44歳
事業所名 アートナイヴ(株)
役職 常務執行役員
職業分類 総合建設

所在地 〒321-0923宇都宮市下栗町2303-18
電話番号 028-678-2257
FAX番号 028-678-2287
推薦者 倉井 章会員 塚越 淳史会員
※(株)日環のグループ会社
※紹介 倉井会長



幹事報告

渡邊和裕幹事

◇2022学年度米山記念奨学生が決定

宇都宮東RCで迎える奨学生はモンゴルのラグワスレン、アマルサナー君(男性) 自治医科大学 地域医療学系 脳神経外科学3年生。

当クラブのカウンセラーは渡邊有規会員。
サブ世話クラブはしもつけRC。

◇大塚稔会員からご挨拶

この度は、ご多忙中にもかかわらず、また、コロナ感染症が収まらない中、母、大塚アイの葬儀におきましては、ご会葬並びにご弔意をいただき、誠にありがとうございました。

「3分間スピーチ」



田原 聖会員

皆さんこんにちは。まず、職業分類は土地家屋調査士です。土地を測量して図面を作る時や、建物を新築した時や許認可申請などお役立て下さい。プライベートについてですが、宇都宮市出身で、1984年(昭和59年)3月生まれの37歳。入会から6年間最年少でしたが、昨年度、田嶋会員に更新されました。家族構成は、妻と5歳の長男と3人で、「自称」愛妻家です。

趣味は、ゴルフですが、まさに下手の横好きでして、横のホールに打ち込むことが多く、今年から改めて真剣に練習したいと思っております。また、この3分間スピーチで話された会員の方もいらっしゃいましたが、サウナにはまっております。熱いサウナから汗を流して水風呂に入ると交感神経が刺激され、ストレス解消できます。

ロータリーに入会したきっかけですが、太城会員と松山会員が紹介者で、愛にあふれるお言

葉を頂き、震える手で入会申込書を書きました。入江会長、永井幹事年度の1月第一例会にて入会致しました。若干30歳で当初不安でしたが、趣味のクラブに参加することで楽しくなり、なんとかやって来られました。また、様々な奉仕プロジェクトにも参加し、青少年を応援することや、津波でできなくなった大船渡の花見が再度できるようになる、と喜んでいただける顔をみて、うれしくなりました。

副幹事、プログラム委員長、SAA、昨年度は渡邊有規会長のもと幹事を務めさせて頂きました。また、地区公共イメージ委員長を務めさせていただいております。今年度は、ロータリー情報委員長を務めておりますので、年度中に情報委員会を開催したいと考えております。入会3年未満の会員の方に多く参加頂きたく思います。

※次回3分間スピーチは野添將嗣会員



卓 話

「Jリーグの今、栃木SCの未来」



株式会社栃木サッカークラブ

代表取締役 橋本 大輔 様

皆さん、こんにちは。今日はよろしくお願ひ致します。

- パワーポイントにて説明 -

はじめに、自己紹介をいたします。現在45歳です。2004年に新潮プレスの社長に就任、2016年3月より栃木サッカークラブの代表に就任いたしました。アメリカでいろいろな価値観を経験して、今、仕事に活かしております。

栃木サッカークラブの紹介ですが、育成組織もあり、トップチームから小学校まで計200名位の選手が在籍しております。1946年創設の栃木蹴球団というサッカーチームが母体になっております。主に学校の先生達が活動を続けていて、イタヤさんにもアマチュア時代から支えていただいております。関東で唯一Jリーグチームが無い県と言われ、サッカー協会や地元の財団の方達が議論し、法人化してJリーグを目指そうという話になったのが2007年位で、2009年からJリーグに参戦しております。

「ミッション」は“地域と共に栃木サッカークラブのある生活の喜びを創り、社会を豊かにする”です。「フィロソフィー」はKEEP MOVING FORWARD“前に進み続ける”です。5年前に、当時J3だったので、J3の他のクラブの選手5名と原博実さんという栃木県出身のチェアマンとスペインに10日間研修に行きました。いろいろなクラブ、100年続いているようなクラブにもいったのですが、どのクラブも一番はじめに説明するのが、「フィロソフィー」で、クラブが大切にしている考え方、根っこの部分を必ず冒頭に話しました。「凄い、100年この考えが続いているのだ」と思い、それを勉強して、2018年から、クラブとしてきちんとした「フィロソフィー」を持つようと考えました。毎年のスローガンは廃止し、まずはこの「フィロソフィー」を選手、ファン・サポーター達にもしっかりと根付かせて、体現出来るクラブにしようと思われました。一般企業と違うところは、会社が掲げる言葉を、ファン・サポーターの方達といかに共有できるか、地域の方達にいかに理解して貰い、一緒になって考えて貰えるか、ということです。徐々に、サポーターの方達もこの言葉を横断幕に書いてくれるなど、共有し始まっています。スタジアムは、グリーンスタジアムとカンセキスタジアムの2カ所です。

Jリーグは、今年30周年なのですが、もともと10チームから始まりました。創設当時から徐々に営業収益も上がり、コロナ前で1,300億円位、リーグとしても拡大しています。J2クラブの営業収益の平均は15億円位で、栃木SCは、もう少しで10億円というところです。2019年のJリーグすべての営業収益の資料では、J1で一番収益を上げているのがヴィッセル神戸の約110億円です。楽天が資本を持って参画しているクラブです。J2で一番多いのは大宮の34億円です。収益に大小の差があるのは、もともとは市民クラブや企業のサッカー部がJリーグに参戦していたのですが、いよいよヨーロッパと同じように、オーナーがしっかりクラブ経営をしていく、といった背景があります。主にIT企業の参画がみられてきております。興味を持っている企業が買収し、Jリーグを活用しながらその地域を盛り上げたり、クラブや自らの事業を大きくしていく、そういう状況がうまれています。昔は海外資本を禁止していたのですが、数年前にそのルールも撤廃して、よりグローバルな闘いが出来るようにと方針を変えてきています。その中で栃木SCの状況は、徐々に来場者数も増え、2019年には5千人超だったのが、2020年はコロナで半分くらいに落ち込んでしま

い、2021年は3,700人まで戻りました。コロナで難しい状況ではありますが、しっかり感染対策をして、今年も開幕いたしました。スタッフも選手も頑張ってくれて、J2の中でいうと、昨年と言えば、平均来場者数が11位、インターネットで試合を配信するDAZN視聴者数も11位でした。また、社会連携ということで、学校を訪問してサッカー教室を開いたりする事業もやっています。

ここにきて、何年も前から取り組んできたことの成果が出て、他のクラブからも評価を貰っているのが、子ども達の育成です。写真の森俊貴は小学校2年生から栃木SCのサッカースクールに入り、2020年に入団して今も活躍しています。黒崎隼人は中学校1年生から栃木SCに来て、今、うちにいます。山本廉は秋田出身ですが、高校の時に一人で宇都宮にきて、一人暮らしをしながら栃木SCでプレーしています。小堀空は中学校からきて、プロとして活躍をしています。明本孝浩は森と同級生で、小学校2年生でスクールに入り栃木SCに入団、今、浦和レッズで活躍しています。こういう選手を目指している子ども達が、サッカーをはじめたいとか、スポーツに興味を持つ、これも我々の仕事の一つだと思っています。

次に、クラブの存在意義についてです。図では、スタジアムやホームゲームがあって、その周りにスポンサー企業や県内の自治体、学校、公共施設、ファン・サポーターなどがあります。こうした、様々な方達と連携を取りながら地域を活性化していきたい、それが我々の役割だと思っています。ミッションを3つに大きく分けると、1つ目はビジネス面(事業的ミッション)で、スポンサーや地元の企業をどれだけ盛り上げられるか、2つ目が教育・育成(競技的ミッション)で、どれだけ子ども達をプロサッカー選手に出来

るか、また、人間形成をどのように手伝えるか、3つ目は社会提携(社会的ミッション)をしていくことです。勝ったり負けたりという不確実性の高いビジネスモデルなので、どれだけ企業価値を上げられるかが自分のミッションだと思っています。

J1クラブの横浜マリノスなど、グローバルな企業が親会社として入り、ビジネスとして成長してきているところですが、我々はまだ、スポーツビジネスと言える段階ではないと思っています。では、事業や競技を成長させる力とは何か、と考えた時に、やはり、郷土愛や誇りが地域を成長させる可能性がある、そういう力があると思っています。サッカーを通して子ども達に栃木を好きになって貰う。社会人になって一度栃木を出ても、将来的に活躍して、また戻ってきて栃木で何かやる。地元を好きになって貰えることが、クラブや地域を成長させていくと思いますので、郷土愛を育んでいく努力をしていかなければならないと思っています。そのためにも、チームが強くなければいけないと思っています。郷土愛を育む為にも多くの皆さんとトップリーグの景色を目指す、これを栃木SCの目標としてやっていこうと思います。是非、応援、よろしくお願い致します。

